

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091200040		
法人名	有限会社 モリモト		
事業所名	グループホーム 田尻の里	ユニット名	
所在地	福岡市西区大字田尻1520番地		
自己評価作成日	2020年9月15日	評価結果市町村受理日	2020年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2020年9月28日	評価確定日	2020年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

通りから少し中に入り周囲を畑など自然に囲まれた場所にある木造平屋の建物です、食材は、地元の野菜やお肉を利用することを基本に調理し、入居の皆様喜んでもらっています。「自分で出来ることは自分です」を基本に考えた介助を実践し、トイレも座位保持できる方にはトイレで排泄してもらっています。南北のユニット間では交流を図り年間の行事は、ホールで一同に介し楽しんでもらっています。又、医療に関しては隣接する医院と今津日赤病院からの訪看をうけて健康維持に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム田尻の里”は2007年1月1日に開設している。常に入居者と家族の事を思い、日々のケア内容の振り返りや職員個々のスキルアップに努めると共に、施設長(管理者)を中心に地元の方々との交流を深めてこられた。理念は『好きに暮らして、明るく安心』であり、入居者の生活歴を把握し、ご本人の馴染みのものを持ってきて頂いたり、ご本人のペースで生活できるように努めている。居室から稲穂の成長を眺めたり、玄関先のプランターの植物を見ながら日向ぼっこをされたり、2つのユニット同士の交流や助け合いもあり、広いリビングでレクや体操、カラオケなどを楽しまれ、梅干し作り等もされている。コロナ以前は保育園児との交流もあり、子ども達から元気をもたらしていた。隣接する森本クリニックとの医療連携もあり、2020年4月から看取りケアも行われている。家族との情報交換を密に行い、24時間の訪問看護(日赤病院)を利用し、誠心誠意のケアが行われている。今後も認知症の勉強を深めると共に、ピアノ演奏会なども楽しまれていく予定である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	身体的・精神的状態が異なる入居者の方々のケアや接し方をその方への最適な方法は何かを職員各自が考え話し合い実践していると思う。また、常に入居者の方々とコミュニケーションを取り、明るく安心な生活のサポートに努めている。	理念『好きに暮らして、明るく安心』の中に5つの内容が作られており、ユニット会議や日々のケアで振り返りが行われている。理念の中の『2.尊厳ある生活者としての「生きがい」を大切にします』も実践し、入居者個々の役割や楽しみを大切にされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度は、毎年秋開催の豊年祭りへ入居者数名が訪れた。また、来所にて保育園児のお遊戯会、地元楽器サークルの演奏会などが行われた。今年度は、コロナの影響ですべて中止になった。	施設長が地域に出向き、地域との連携を深めてこられた。コロナ前は“お楽しみ会”等で保育園児(年2回)と交流し、敬老会ではボランティアの方が演芸を披露して下さい。中学生の体験学習ではレク等を楽しみ、地元公民館のオカリサークルの方が演奏に来て下さった。	今後も公民館館長や自治会の方と情報交換し、新たな地域交流を見つけたいと予定である。コロナ禍においても保育園児やボランティアの方々とビデオ交流を行うなど、楽しみの機会を増やしていきたいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に、大きな働きかけは行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は、年6回の運営推進会議において運営・御利用者・活動・インシ、アクシ、事故報告等の状況報告を行った。今年度は、コロナの影響で2回しか行えていない。また、参加者の意見・要望等にも耳を傾けて運営に生かすように取り組んだ。	公民館の館長に自治会の方を紹介して頂いた。コロナ禍においても開催できる時は、家族、市の職員、保育園の先生、訪問看護師、公民館館長、地元商工会など、多方面に声かけし、ホームの取り組み等を報告すると共に、感染症や災害対策の情報交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告や分からないことがあれば、担当行政の方に電話等で連絡をとっている。	不明点等は施設長(管理者)が市役所に電話で相談し、書類等のアドバイスを頂いている。市主催の研修(権利擁護、感染症、虐待等)に参加すると共に、地域包括の担当者や情報交換し、ホームの空室情報のネット公開等をお願いしたり、入居者の紹介をして下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニット会議時、内部研修や勉強会などの時間をとり、各職員が身体拘束とは何か、どういうことが拘束になるか、それをしないための他の具体的な解決策を理解・実践に努めている。	“身体拘束をしない”という方針を共有している。日々の状態を家族に報告し、予測されるリスクを説明している。感情不安定な時は不安を減らす方法を検討し、居心地良く過ごせるように努めている。認知症症状等は医師に相談し、入院治療等も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各ユニット会議時、内部研修において認知症の方々への理解と対応及び権利擁護の勉強会などを行い、日頃の行動・言動が虐待になっていないか各職員が意見・指摘し、注意・防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各ユニット会議時、難しい項目であるため、大まかに理解できるような勉強会を行った。	成年後見制度を利用する方もおられる。ケアマネの方が内部研修で制度の講義をされたり、外部研修も受講している。家族から相談を受けた時に制度の説明をしており、今後も入居早々の説明を心掛けていく予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書・重要事項説明書などで御家族に事項を説明している。また、解約時には、トラブル防止のためご家族が納得できるような原因説明を行っている。改定等の場合は、事前にご家族の意見をアンケートで聞くようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族やご利用者の意見要望等があれば各ユニットの職員で報告、話し合いをし改善、対処を行うよう努めている。	お便りを毎月発行し、暮らしぶりを報告している。コロナ禍も感染対策に留意し、電話や窓越しの面会等が行われている。面会時の会話を大切にされており、笑顔で挨拶を心がけ、話しやすい雰囲気が作られている。家族の要望もあり、2020年4月から看取りケアが行われている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の企画、行事等の提案、業務上の相談、ご入居者及び御家族に関する相談、報告等は、まめに聞くようにし、より良い運営につなげていくように努めている。	施設長は職員の意見や要望を尊重している。職員主体で毎週水曜日に両ユニット合同レクを行ったり、ユニット間の助け合いも行われている。2020年4月から看取りケアも行われているが、事前に職員の意思統一が図られた。異動も行われ、職員の意向確認をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務シフトは、なるべく希望休みを取れるよう作っている。有給休暇も積極的に取れるような環境にしている。定時には、帰社できるようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用時には、資格、年齢、学歴、性別等により排除しないようにしている。なお、経歴等は、多少採用時に考慮している。	職員の紹介で入職する方もおられ、人員体制は充足してきている。採用時は資格を問わず、「福祉に対する思い」「介護を選ばれた理由」等を確認している。施設長は職員の頑張りを評価し、現場の課題分析を一緒に続けている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	各職員が、入居者方々の過去の職業、生活歴等で差別、偏見を持たないようにしている。	施設長は、理念にある「3.笑顔の絶えないスタッフ…」である事を伝えており、職員も入居者の笑顔を引き出す取り組みを続けている。「人の痛みを感じられること」「当事者意識を持つこと」「入居者の家族を思いながら関わる事」等を職員と共有している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度は、内部勉強会や内外研修会に参加・行いスキルアップ向上に努めた。今年度は、コロナの影響で内部研修や勉強会で更なるスキルアップに努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか、同業者との交流は、行えていない。しかし、ケアマネ事業所、地域医療相談室や包括支援センター等との入居に関する情報提供等は、行えている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、入居前の生活歴等のデータを基に御家族と相談しながらケアプランを作成している。また、ケアプラン更新時には、追加すべき、見直すべきところをご家族と相談しながら作成している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、入居前の生活歴等のデータを基に御家族と相談しながらケアプランを作成している。また、ケアプラン更新時には、追加すべき、見直すべきところをご家族と相談しながら作成している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できていると思う		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方々にお盆ふき、洗濯物たたみなどできることは、やってもらっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居宅療養先医療機関以外の受診の場合には、ご家族が付き添いし受診に立ち会っていただいている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者のご家族、知人等からの訪問、連絡などで、ご本人が関係継続を行っている。コロナ期間は、電話、手紙等で行っている。	入浴時や団欒時などに、生活歴や以前の仕事、食べたい物などを教えて頂いている。農業をされていた方もおられ、外の稲穂を見て喜ばれたり、愛用の“モンパ”を着られている。コロナ前は家族と美容院や自宅、お寺等に行かれた方もおられ、知人や家族と居室で過ごされていた。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方々には、そろって食事をとっていただいている。また、いろんなレクリエーションをみんなでやっている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のご家族からは、ほとんど連絡が来ないので相談や支援はできていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方より良い生活は何かを考え、本人の思い、意向を組むようにしている。	理念『好きに暮らして、明るく安心』を大切にされている。“好きに暮らせる”ように生活歴や要望等を把握し、「家族に会いたい」等の要望を叶えるように努めている。意思疎通が困難な方も表情等から意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のフェイスシート及び御家族様からのお話を聞いて、把握に努めるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の方々それぞれの生活スタイルで、起床、就寝時間等を変えたり、それぞれの現状に合わせるよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時及びケアプラン更新時に入居前の生活歴等のデータを基に御家族と相談しながらケアプランを作成している。また、ケアプラン更新時には、追加すべき、見直すべきところをご家族と相談しながら作成している。また、会議、申し送り等で行っている	入居者、家族との担当者会議を行い、要望を確認している。医療連携を行い、治療内容やリハビリ内容と共に、自立支援の視点も大切に「お盆拭き」「洗濯物たたみ」等の役割やレク等の楽しみも盛り込まれている。ケアプラン別表と3表には24時間全般のケア内容を記載している。	今後もアセスメントの中に「人体図」「有する能力(できる能力・できそうな能力)」「介助理由」「各活動の要望」「BPSD行動の背景(原因)」「解決策」等を増やすと共に、介護計画の短期目標を具体化していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や申し送り、会議等で情報共有をして実践、改善できていると思う。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの方の状況、状況に合わせて、日々サービスの提供のやり方、支援を行っているように努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当施設が、地域資源として社会的役割を持つうえでより良い暮らしをしてもらえるようにサービスを提供に努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅療養先のクリニックや医療連携委託先の訪問看護ステーションより、入居者の方々の日々の健康管理を行ってもらっている。	往診が可能であり、森本医院に主治医を変更される方もおられる。職員は日々の観察を続けており、少しの変化も主治医に報告し、指示を頂いている。週3回の訪問看護と共に、体調変化時は24時間訪問して下さり、医師との協力体制もできている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師が、来所したときにいろんな相談を行い、助言を頂いている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関のソーシャルワーカー等とまめに連絡を行い、現状情報等を聞いている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期において、ご家族に今後の指針の相談をしている。また医療ケアができないことを伝え、ホームで看取りを望まれているご家族には、看取りを行っている。	「ここで最期まで」と希望する方が多く、体調変化に応じて家族、主治医、訪問看護師等と情報交換が行われている。2020年4月から看取りケアが行われ、母体医院の医師が休日以外は訪問して下さり、訪問看護も利用しながら、誠心誠意のケアが行われている。体調に応じて救急搬送が行われている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時及び事故発生時には、主治医及び看護師に連絡を行い、指示を仰いでいる。また、緊急性がある場合には、救急搬送を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練及び非常災害時避難訓練をおこなっている。	年2回の訓練を行い、1回は消防署と一緒にやっている。避難方法等は夜勤専門職員の方とも共有している。災害時は水と非常食等を常備し、医院の2階(3階の屋上)に避難する事ができる。近くに農業用水があるが、市が水量等のコンピューター管理を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の尊厳を傷つけないように努力しているが、時折、職員によっては、入居者の方への配慮が欠けている場合がある。	排泄時等は耳元でお誘いし、入居者の誇りやプライバシーを損ねないように努めている。トイレのドアやカーテンを閉め、羞恥心への配慮を続けると共に、個人情報管理にも配慮している。今後も更に声かけ等の振り返りを続けていく予定である。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく本人の思いや希望に添うように働きかけているが、難しい場合も多少あると思う。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく本人のペースで生活していただいているようにしているが、食事 トイレ 入浴等は、業務の流れがあるので、いたしかたない。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が同じ衣服を着ないよう、職員が管理し、ご本人に提案している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆ふき等、行為ができるご利用者には、やっていただくようにしている。	昼食は配食を利用し、朝と夕はホームで作られている。入居者の希望や栄養面を考慮した献立が作られ、お肉も喜ばれている。白米が好きな方が多いが、パンの日もある。入居者もテーブル拭き等を手伝って下さり、庭の紫蘇やトマト、ハーブ等を収穫し、紫蘇ジュースや梅干し作りも楽しまれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月ごとにメニューを作成して、和洋中折り込んだ食事を提供している。また、水分等は、摂取量などを管理している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の方々に、食事の後の歯磨き等の声掛け、いれば洗浄等の口腔衛生ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートなどで利用者の方々の排泄管理を行っている。また、おむつ、パッドなどの使用頻度、交換回数なども日々話し合いながら対応している。	排泄が自立する方もおられる。車椅子を利用する方を含めて布パンツ(パッド)を使用する方や、ご本人の安心から紙パンツを希望する方もおられる。適宜、事前誘導が行われ、心身状況に応じて立位訓練を行い、転倒防止バーに掴まって頂き、安全に排泄できるようにしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、ヤクルト、果物等で便秘の改善、緩和、予防を行っている。腹部マッサージ等も行っている。ただし、改善されない場合には、服薬等で対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の方々のすきな時間には、介助が必要な為、入浴することができない。日によって、拒否が出た場合曜日をずらして入浴の支援を行っている。	好みの入浴用品を家族に持参して頂いている。午後はレク等の活動があり、午前中に入浴にしているが、失禁時等は適宜シャワー浴をしている。入浴時は職員との会話を楽しまれ、できる所は洗って頂いている。季節に応じて柚子湯や菖蒲湯を楽しまれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもご本人様が睡眠をしたければ休んでいただくようにしている。また、就寝、起床時間もなるべくご本人様の意向を組んでいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、職員がしっかり管理している。また、常に主治医と相談しながら薬の調整等を行っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様にそれぞれの役割を持っていただいている。お盆ふき、洗濯物たたみ、古新聞折りなど。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人での外出は、ご家族対応をお願いしている。また、今現在コロナの影響で外出を自粛している。	ホーム前で日向ぼっこを楽しんでいる。食事が楽しみな方が多く、コロナ前はハンバーグやお寿司等の外食をされたり、ケーキ屋でケーキやソフトクリームを食べられていた。季節の花見(桜、秋桜等)や糸島の海沿いのドライブを楽しまれたり、家族と一緒にドライブや外食をされる方もおられた。コロナ収束後は外出を増やしていく予定である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設内は、金品は不要なので所持していただいている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様のご希望があれば、ご家族等にお電話をして、本人との会話ができるようになっている。また、コロナの時期で面会が難しいためご家族等に手紙など送っていただくようお願いしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境的要因で不穏等が出ないように、空調調整、照明調整等を行っている。また、ご利用者の事故にならないよう、いろんな物の配置等を注意している。	リビングは広く、天窓から陽が差し込んでいる。ユニット間の引き戸を開放し、入居者やスタッフが行き来でき、換気も行われている。除菌可能な大型空気清浄機があり、冬は加湿器を使用している。対面式のキッチンで、見守り等が必要な方の席をキッチンの近くにさせて頂いている。今後もホームにあるピアノの演奏等を楽しむ予定である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席は、入居者の方々の相性を考え、職員が配置している。また、テレビを見たい方は、テレビ前ソファに移動してもらったり、職員が中に入り、入居者の方々の会話等のコミュニケーションをとっている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご家族様に本人様の今まで使っていたなじみの生活用品を準備してもらっている。また、ぬいぐるみや写真、置物等も持ち込んでもらっている。	窓から稲穂の成長が見える部屋もある。農業をされていた方は“モンベ”等を持参され、愛用されている。和筆筒、鏡台、ボールペンやメモ帳等と共に、仏壇等も持ち込まれ、職員が水をお供えている。居室でテレビや雑誌を読まれる方もおられる。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアには、誰でもわかるよう「トイレ」と書かれた張り紙を貼っている。また居室の入り口にも表札を付けている。介助が必要なご利用者と自立で大丈夫なご利用者のトイレを分けている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				